



教深寺山門。真言宗豊山派。



教深寺本堂。本尊は薬師如来。



教深寺本堂前の宝篋印塔



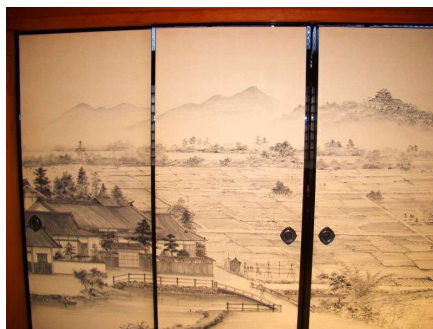
教深寺本堂



本尊の薬師如来にちなみ薬草が書かれた教深寺本堂の天井



天井絵奉納者芳名(教深寺本堂)



教深寺本堂内の襖絵(大間の町並み、松山城を望む、石鎚山等)



永代供養塔(教深寺境内)



「たまみねさん」を回る前に本堂で大般若教をあげる住職。



大般若教をひつぎに入れて大間地区を担いで回る「たまみねさん」



神仏混淆の名残金比羅大権現(教深寺境内)



教深寺で行われる孟蘭盆の仏事施餓鬼法要



有明泉で行われる魂送りの習俗灯ろう流し

大間の教深寺

大間のたまみねまつり

大間は、岡田郷の中の高柳に属し、応永年間(1394~1427)には大魔とも書かれたことがあったらしい。怪しい怪物が暗く寂しい夜に姿を現し、人をさらい、家畜を殺傷した。また、夜ごとに疑わしい火災が起こり、一夜に5戸を火事が発生したことがあった。里人たちは大変恐れ、寝食を忘れ、仕事も手につかないでいた。この怪しいできごとはたちまち近村に広がった。

ところが、ある夜、大間の庄屋郷田某の眠る枕もとにその怪物が現れて、「ほこらを建て(天王社、火防の神)六斎日(1ヶ月のうち斎戒すべき六度の日、即ち8日・14日・15日・23日・29日・30日)にあずき飯一斗を炊き、真夜中に我をまつれ。」と告げて去った。庄屋郷田某は、毎夜の災難に頭をいためていたときであるから、早速言ったとおりその日小豆飯一斗を炊いてほこらにまつると、今まで続いていた怪事はたちまちやんだ。後にこのことを伝えて大魔といい、また大間になった。

ほかに、大間にはこのような話もある。今から180年前のある雪の降る日、食物に飢えた大猪が谷上山から食物を求めて大間に入って来た。里人たちは獲物なので追廻してとうとう殺してしまった。ところがこの大猪は、なんと谷上山のお使いだったのである。天罰できめんで、その後、大間部落の人家から不審な火事が人の寝る時刻に毎夜のように起こった。便所や納屋の隅といったぜんぜん火のない所から火事になった。当時は、谷上山の大猪のたたきとして、六斎日にあずき飯を献じてまつり始めたともいう。大間部落にある教深寺では大般若経をあげ、素鷲神社では鈴神楽を奉納してまつりを行っていた。今でも火祭り(たまみね祭)といって旧暦2月23日、(現在は新暦の3月13日)に教深寺では大般若経をあげ、部落中を経櫃を担いで回ります。

その経櫃を持ち上げてその下を里人らは潜って息災を祈ります。

大間にはここ65年間で火災は一度おじいさんが焼死したのが33年まえ、ぼやが4件です。

現存する大般若経は600巻のうち200巻。担ぎ手は以前25歳の男子か、42歳の厄年の男子でしたが今は組み当番で決めています。

(教深寺資料より)



「たまみね祭り」を回る前に本堂で
大般若経をあげる



大般若経をひつぎに入れて大間地区を
担いで回る「たまみね祭り」





教深寺で行われる盂蘭盆(うらぼん)の仏事施餓鬼法要



有明泉で行われる魂送りの習俗灯ろう流し



月見の名所有明橋



本尊の薬師如来にちなみ薬草が書かれた教深寺の天井



有明橋のたもとの地藏尊

大間の施餓鬼法要・灯ろう流し

(8月25日同時に開催)